



## 2025年の講座の準備をしています

### 「情報くださ〜い!」

運営委員会では今、来年度の講座について検討を進めています。パンフの作成や広報期間などを考えると、そろそろテーマや講師も確定していかなければなりません。例えば時事問題講座の1年後のテーマを今決めるなど、実は結構難しい作業です。受講するみなさんの関心にそった、また好奇心をそそるような、ちょっと面白そうだなと思ってもらえて、この社会人大学がもっともっと広く知られ魅力的になる講座 … あーだこーだ、あれはどうだこれはダメか、行きつ戻りつ、とてもしんどくてちょっぴりワクワクしながら、作業を進めています。



### 教えて!

2025年度の開講講座は今年度と同じ講座で、①時事問題講座 ②寄席芸鑑賞講座 ③歴史講座 ④写真講座 ⑤漢字学講座 ⑥北近畿探訪講座 の6講座の予定です。

これらの中でも特に情報不足でテーマ設定に苦労しているのが「北近畿探訪講座」です。受講生のみなさんのお住まいされているところで、「こんな面白いところがある」「こんな人がいるよ」「この地域特有の解明したい、はて?なこと」など、どんなことでもいいので情報があればぜひ教えて下さい。

よろしければぜひ運営委員になって、一緒に悩んでみませんか!?

いつものお願い

開講日、会場の

変更にご注意ください

7月の通信で、後半の日程・会場をお知らせしています。年度当初より変更になっている講座がありますのでご注意ください。

以降の変更はわかり次第お知らせするように努力しますが、時間の余裕がない場合は、該当講座の受講生のみお伝えします。振替受講や飛び入り受講をご希望の場合は、変更がないか必ず事前に事務局(☎080-2511-1751)にご確認ください。または、京都高齢者大学ホームページから「北近畿校トップ」のページをご覧ください。

### 振替受講のおすすめ

今年も残りの講座が少なくなりました。前号でもお知らせしましたが、お休みした講座が多い方、時間の許す限り振替受講制度をご利用ください。来年に持ち越しは残念ながらできません!



# 9月の各講座の概要と、ひとこと感想から

(感想は一部を抜粋したのも  
あります。ご了承ください)

## ◆時事問題講座 9月3日

### 「地球沸騰化時代の地域と暮らし」 講師:木原浩貴氏

いまだちに手を打たないと、私たちの暮らしは大変なことになる、残された時間はないという話でした。

講師は自宅に太陽光パネル、太陽熱温水器、蓄電池、ルーパー付き雨戸などを設置、さらに住宅自体を断熱構造にするなど、CO<sub>2</sub>の排出を極力抑えた生活をしているとの話が導入部。

温暖化はあきらかに人間の活動がもたらしたもので、気候変動だけでなく、その変化に伴う各国の政策や経済の変化などについて、各種のデータを示しながら話は進み、今すぐ一人ひとりが、そして国が行動を起こさないと私たちの暮らしはアブナイと危機感を訴えられました。

私たちが取り組めることは小さなことを含めたくさんありますが、特に住宅を断熱構造にするというのがコストを考えると最も効率的であるとのこと。ヒートショック対策にもなり体にもやさしいですね。

今回の講座で受講生の一人ひとりが、今日から何かしなくてはとの思いを持たれたのではないのでしょうか。

講師の話し方にキレがあり、温暖化の将来に対する方向がわかりました。

内容がいっぱいで、話がどんどん展開していくので、ついていけなかった。エネルギー問題を考えるきっかけになった。

落語のルーツ、新しい知識が得られた。醒睡笑を読みたいです。鶴笑さんの貴重なエピソードが聞いて良かった。



初めから終わりまで笑い放し…顔や、お腹のシワが増えましたが、免疫力が最高に上がりました。介護疲れがフツ飛びました。



こんなに切羽詰まっているとは、びっくりした。ガソリン車で帰宅してもいいの?? という気持ち。生活や暮らしやまちづくりにまで関係する話で、大変勉強になりました。トマホークを買わず、マイナカードの勢いで国として取り組む課題ですね。

## ◆寄席芸鑑賞講座 9月12日

### 「落語についてのお話を聞き落語を楽しむ」

講師:笑福亭笑利氏

今回の寄席芸講座では、笑福亭笑利さんを講師にお迎えし、落語の歴史やその魅力について教えていただきました。落語は茶室や辻で話されていた笑い話から発展し、1人で複数の役を演じることで聞き手の想像力を引き出す芸です。話の最後には必ず「落ち」があり、そこから笑いが生まれます。

笑利さんは、どこでも座布団一つあれば落語を披露できると語り、バーや銭湯、砂浜などで公演したエピソードに会場は大爆笑。特技の紙切り芸でも、面白い話をしながら切った紙絵が「落ち」となり、感心しつつも笑いが止まりませんでした。また、似顔絵を交えた演出で会場全体を巻き込み、受講者にとって特別な講座となったと思います。最後に、「膝小僧」という膝に顔を描いたパペットを使った落語でさらに会場を盛り上げ、笑いの力が健康にも良いことを実感させてくれました。さらに、師匠・鶴笑さんへの思いが語られ、その感動的なエピソードにも心を打たれました。

## ◆写真講座 9月17日

### 「『映える』写真を撮る」

—より美味しそうに、より鮮やかに—

講師：四方智基氏



今回は、調理室を借りての撮影会。淹れたてのコーヒー・紅茶と凝ったスイーツ、茹でたてのそば、と準備できればよかったのですが。プラザ周辺のケーキ屋さんにはほぼ火曜日がお休みで、スイーツはスーパーの袋入りに。そばもスーパーで袋入り流水麺、水でほぐすだけ。パックのジュースに、運営委員宅の畑で収穫できる限りの野菜。これらの材料で「映える」写真に挑戦します。

自然光が差し込む場所で、柔らかな光を活用。レフ板（反射板）を使って少し明るめに撮ると、より美味しそうに。撮る角度も大切。背景はシンプルにすると被写体が引き立つ。等々コツを聞いてから実践。

思い思いに撮影しながら時々モニターチェック。「わー！美味しそう！」の声も聞かれました。撮影終了後は撮影に用意した飲み物とスイーツをいただきながらの質問タイムとなりました。

「おいしく撮る」— うーん、なかなか難しいです。光をどうあてるのか、どの角度であてるのか、悩んでもなかなかです。

お気に入りの料理やケーキを作った時、写真に残したいと思いつつなかなか実行できませんでしたが、今日は存分に学びたくさん実践できて、少し自信がつかえました。

商品撮影のノウハウが取得できて大変良かった。



## ◆歴史講座 9月18日

### 「丹後の古代王国について」 講師：松尾史子氏



今回の講座は与謝野町立古墳公園（蛭子山古墳群、作山古墳群所在地）で行われました。前半は、はにわ資料館講義棟で座学、後半は資料館内の埴輪・土器・古代の道具や装飾品の見学及び説明、最後に各古墳群の現地見学及び説明。

講義は古代の丹後を弥生時代から古墳時代を中心に、①紀元前3世紀～紀元後3世紀（鉄とガラスと玉の国） ②3世紀～7世紀（畿内政権と丹後の豪族たち）と話を進められました。出土した鋳造（ちゅうそう）鉄釜やガラス塊などからもわかるように、大陸や朝鮮半島、北部九州との交易により早くから先進文化を入手していました。これら鉄や玉づくりの技術力に裏打ちされた王が、より大きな権力基盤を持っていたと考えられる。日本海交易を掌握していた丹後の王の姿が見えてきます。ヤマト政権の成立に関わって大きな役割を果たしたものと考えられ、このことは「古事記」や「日本書紀」の天皇と丹後の姫との婚姻記事からも裏付けられます。と、非常に分かりやすく丁寧に、丹後王国の成立の要件、推移等講義していただきました。

また現地見学の蛭子山古墳では、個人的な話で申し訳ありませんが、私がまだ小学生の頃、近くに親戚があったもので夏休みによくこの山に来て石棺の周りで遊んだことが思い出され、非常に懐かしく見学させていただきました。

この日は9月中旬過ぎにもかかわらず大変蒸し暑い日でした。また講義棟はクーラー故障のため扇風機だけで、講師・受講者共に汗を拭きながらの講義でした。

丹後の地にこのような広大な古墳があることを今になって初めて知りました。古の歴史に思いをはせ、先生のロマンチックなお話もあり大変興味深い勉強会でした。

地元で暮らしながら系統的に地元の古墳について学んだことがなかった。是非続編をお願いしたい。

◆漢字学講座 9月19日  
「季節を表す漢字」 講師:久保裕之氏

二十四節気・・・一年を二十四に区分し季節を表す。  
東アジアのみの表現

二十四節気七十二候・・・さらに七十二に区分した。  
(およそ15日ごとの区分となる)

七十二候では、初候、次候、末候と3つに区分している。

今の季節は二十四節気の秋分にあたり、七十二候では「雷乃収声」(雷が鳴り響かなくなる)。

日本は(かみなりすなわちこえをおさむ)など、中国と日本では表現に差がある。

例えば、寒露の初候(10月の23日から27日)では中国では山犬が捕らえた獣を並べて食べる。  
であるのに対して、日本では霜始降(しもはじめてふる)となる。

その表現は、中国が直接的であり、日本はほんわりとしている。

また、宮中の行事である五節句・五節供として、1月7日・・・人日の節句(七草の節句)5月5日・・・  
端午の節句などがある。

雑節 日本独自の暦日は、節分、彼岸八十八夜、半夏生などがある。  
このように、古来より人々は微妙な季節の変化を表現していった。



二十四節気、七十二候が詳しく聞  
けて良かったです。中国人、日本人  
の美意識が微妙に違って、そ  
こも聞けて良かったです。

昨今の異常気象により?も感じま  
したが、植物、動物等の季節による  
変化が、事細かに観察され、漢字で  
表されて驚きでした。



◆北近畿探訪講座 9月25日  
「京都府北部の天気予報は世界一難しい」  
—京都府北部の気象特性と天気予報の作り方—  
講師:川邊昭治氏

気象は、特に予知は人の暮らしにとって無関心で  
いられるものではありませんでした。"明日は明日の  
風が吹く"とっておれる人はごくわずかだろうと  
思います。(実際は気象のことではないですが。) 科  
学が未発達の際は、経験とカンで乗り切らなければなら  
なかった。現在はテレビをつければ天気予報はいつでも得られ  
ますし、1週間先でもほぼ予報通りの精度になっています。

講義では8項目の主な内容で説明をされました。その中で、天  
気は西から変わるという項目では、真冬は大陸(シベリア)の高  
気圧の影響が強く、真夏は太平洋(小笠原)高気圧の影響が強い  
とあります。丹波地域においては「弁当忘れても傘忘れるな」の  
言葉があります。特に秋の終わり頃から冬にかけては忘れてはい  
けない言い伝えです。これには、由良川中流域と加古川を結ぶ線  
は日本列島で最も低い分水嶺となっていることなど、京都府北部  
の地形が影響して、表題の「京都府北部の天気予報は世界一難  
しい」ものとなっているのでしょうか。また、東シナ海は水深が浅  
いので太陽光が届きやすく気候の変化を受けやすいことや、梅雨  
はインド洋のベンガル湾から北上した気流がヒマラヤ山脈に阻  
まれ日本にやってきていることなども知り、気象への探訪となり  
ました。

今回 20 名が受講され 15 名の方からひとこと感想をいた  
だき、関心の高さがうかがえました。

大変、気象に関心があり、もし若か  
たら気象予報士になっていただろう  
と思います。

地学・気象学に、天気予報がこんなに  
奥深いものだと知りました。大変分  
かりやすい講義でした。

すごく丁寧でわかりやすかった。お  
天気のいろいろ、おもしろいです  
ね。素振りの話は、私も自分で判断  
していたけれど、実践しようと思  
いました。